

みずほ銀行_面接対策

0.1. 自己紹介

京都大学理学研究科修士一回生の柏原と申します。普段は理論物理の研究をしています。ただ、研究職にはあまり興味はありません。昔から池上彰さんの番組が好きで、大学入学当初は「理系の池上彰」に成りたいと思っていました。大学では社会学の講義などに熱心に取り組みました。趣味は中学の時から続けているチェスです。大学では自分でチェスサークルを立ち上げました。社会人になった際には、理系の素養を持ったジェネラリストとして、主体性を活かして働いていきたいと考えています。改めて、本日はどうぞ宜しくお願いします。(40秒程度。銀行マンとして働く決意を伝える。)

0.2. 大学院ではどんな研究をしているか？

特殊な絶縁体について研究している。名前はトポロジカル絶縁体というが、普通の絶縁体は単に電気が流れないという性質を持つが、トポロジカル絶縁体は、それに加えて変な現象を起こす。

0.3. なぜその研究テーマを選んだか？

自分の強みを生かせるから。先ほど申し上げた変な現象は、数学と関わりが深いことが知られている。自分の強みは物理と数学の両方を学んだことだったので、それが生かせると思った。

0.4. なぜ研究職に興味が無いのか？

理系以外の分野も好きだったし、自分の強みは何かの特化することでは無いと昔から感じていたから。学校の勉強は理数系がすごく強い訳では無く、国語や社会なども含めて満遍なく成績が良かった。そういうオールマイティさを武器にするのがいいと思った。

0.5. 社会学の講義にはどういう風に熱心に取り組んだか？

講義でのレポートに特に力を入れました。課題内容は「社会学者を一人選んで、その人が主張した内容をまとめなさい」というものでした。

0.6. 俺は誰を選んで、どのように、まとめたか？

私はマックスウェーバーという社会学者を選んで、その人の代表的な著作を実際に読んで内容をまとめました。

0.7. なぜウェーバーを選んだか？

きっかけはとある新書(羽入達郎「マックスウェーバーの犯罪」)を読んだこと。その新書の内容はかなりセンシティブで、ウェーバーの主張は間違っているというものでした。さらに、この新書に対する反論するための本を出した人(折原浩)がいるということを知って、面白そうと思った。

0.8. なぜ原著を読もうと思ったか？

人づての話では無く、自分の目で確かめることが大事だと考えているからです。

0.9. 自分の目で確かめることの重要性を感じたエピソードはあるか？

高校の頃までは、原著を解説したような本でも良いと思っていた。ただ、私が読んだ解説本の中に、高校の国語の授業で扱った人物が出てきて、読んでみると全然高校で習った内容と違うと、ということがありました。それ以来、原著を読むことを意識するようになりました。

0.10. 他にはどんなことを調べたか？

授業以外でも、その時々タイムリーな話題と古典的な著作の両方を調べました。例えばタイムリーな話題で言うと1回生の時に難民について調べました。また、古典的著作で言うと例えば民俗学者のレヴィ・ストロースの本を読みました。

2回生の時は外国人技能実習生について、3回生の時はイランの現代史を学びました。また、民俗学者のレヴィ・ストロースの本も読みました。

0.11. なぜそのテーマを選んだか？

難民については、シリアの内戦による難民が話題になっていたことと、当時アメリカのトランプ大統領やフランスのルペンさんが移民排斥を主張して話題になっていて、そういえば移民と難民って何が違うんだろうと思ったことがきっかけでした。

レヴィ・ストロースについては、高校の国語の教科書で扱われていました、その文章に私は感銘を受けたので、いつか読みたいと思っていた。

外国人技能実習生については、その延長のような形でした。イランの現代史については、中東情勢を一度は学んでおきたいと思ったことがきっかけでした。

1. 質問対策

1.1. なぜ金融か？

私の就活の軸は「人の意思決定を支援しながら、自分自身も成長できる職を選ぶ」というものです。人の意思決定には、今の社会ではお金がつきものなので、金融業界を志望しました。

1.2. なぜその軸にしたか？

私自身、進路選択やサークルの運営方針などの意思決定の場面ですごく悩んだ経験があるので、悩んでいる人に対して自分が出来ることがあれば手助けしたいと思うようになった。成長に関しては、自分の成長を実感できた方が、楽しく仕事を行えると思った。

1.3. これまでに人の意思決定を支援したことはあるか？

- 塾講師として進路選択を支援した。高専を目指しているが数学に不安がある生徒の背中を押した。

1.4. なぜ銀行か？

自分が成長できると感じたから。銀行は幅広い業務を扱っており、様々な業界に触れたり、経営者の方と直接お話をしながら学ぶことが多いと思った。

1.5. なぜみずほ銀行か？

2. ES深掘り

2.1. リーダーシップを発揮した経験(ガムテープ)

2.1.1. なぜそのテーマを選んだか？

面白い実験がしたかったから。実験テーマを決める時期には、大学院入試が終わっていて、研究室のメンバーは全員理論の研究室に進学することが決まっていた。なので、その実験が人生最後の実験になることが分かっていた。そこで、どうせやるなら面白いテーマを選びたいという思っていたなかで、指導教員にこのテーマを提案されて、みんな食いついたという経緯でした。

2.1.2. 実験装置はどんなもの？

ガムテープを剥がす装置の役割としては、2巻きのガムテープから、テープを剥がして、粘着面同士を引っ付けて、もう一度剥がすというものです。一連の動作ではテープを引っ張る必要があるので、この動力源として、モーターを使いました。光の強さを測定する装置は作っていません。測定装置は、既に研究室にあったものを使いました。やや誤解を与える書き方になってしまって申し訳ありません。

2.1.3. 他のメンバーは主に何に貢献したか？

基本的にみんなで作業を行っていたが、実験装置の電気回路を組み立てる部分を主に担当してもらった。その部分は私は苦手だった。

2.1.4. 説得力のあるデータ解釈とはどのようなもの？

測定誤差では説明できないことを、論理的に示せる解釈のこと。今回の実験では、私たちが得たデータと、理論値との比較が重要でした。しかし、データと理論値が違っても、もしかしたらそれは測定誤差で、我々の使った装置のせいかもしれません。私達が行ったのは、理論値との差は測定誤差では無く、本当に違うんだということを示すということです。

2.1.5. その解釈はなぜ重要？

それは、私たちの研究の結論を左右するからです。研究としては、単にデータを取るだけではなく、そのデータに対する解釈を与えないといけません。その解釈が、「従来の理論で説明できる」になるのか、「従来の理論では説明できない」になるのかでは、結論が変わってしまいます。

2.1.6. 研究はどのように評価されたか？

面白い実験結果だと言ってもらえた。実験装置を自分達で作ったことに対しては、「さすが京大生だ」と言ってもらえました。

2.1.7. この経験から何を学んだか？

諦めずに行動し続けることの重要性を学びました。この教訓は、例えば御行での法人営業業務で良い提案内容が思いつかないときでも、諦めずに考え続けることに活かせると思います。

2.2. 自覚している性格(粘り強く物事に向き合う性格)

2.2.1. 他のエピソードはあるか？